



町長エッセイ



今年で18回の歴史を重ねた「武蔵の小京都おがわを描く展」では、小川町のさまざまな景観に出会うことができます。里山の風景、四季の花々、歴史的建造物、神社仏閣、親水公園や旧下里分校等で、それらが油絵、水彩画、水墨画、はり絵、色鉛筆画等の手法で描かれていました。故郷の良さを再発見できた展覧会で、各賞は来場者及び後援者の投票で選ばれました。

さて毎年3月、各学校は巣立ちの時を迎えます。なかでも中学校の卒業は9年間の義務教育の修了でもあります。卒業生が学校生活をスタートさせた年（9年前）は、各地区にウ

ltraパトロール隊が結成された年でもあり、ずっと地域の人達に見守られて登下校した生徒達です。町内中学校3校の卒業式では、緊張ぎみに卒業証書を受取る卒業生と、授与される様子を見守る保護者で、会場は凜とした雰囲気にも包まれました。一人一人に手渡された卒業証書は、生徒自身が細川紙技術者協会の指導で漉いた和紙です。折にふれ「和紙のふるさと」を思い出してくれることでしょう。

「武蔵の小京都おがわを描く展」と手漉き和紙の卒業証書、どちらも「和紙のふるさと」を象徴する情景です。